

大连理工大学二〇〇三年硕士生入学考试

外国语言学及应用语言学(日语)

《专业综合能力测试》试题

第 1 页

共 6 页

注: 试题必须注明题号答在答题纸上, 否则试卷作废!

第一部分 (中文)

请用语言学方面的知识回答问题:

(答案请写在答题纸上)

问题一、从提示词语中选择适当的词填空 (1 分×30 空=30 分)

1. 语言学是研究语言的科学, 它的基本任务是要弄清楚语言的 1 规律和 2 规律。
2. 具有悠久历史文化传统的 3, 4 和 5 是语言学的三大发祥地。
3. 语音学的任务是探索 6 方面存在和发展的规律。普通语音学以 7 为研究对象, 它的任务是解决对 8 有普遍意义的 9 问题, 包括 10 的普遍规律和 11 现象。
4. 文字学的任务主要是研究 12 与 13 的关系, 研究文字的 14 以及相应的 15 形式和 16, 研究文字 17 和 18 的历史等。
5. 语法规则实际上就是对人们说的话中的 19, 20 和 21 的某种类的概括。语法规则具有严密的系统性。所谓“系统”指的是语法规则具有 22 和 23。
6. 理论语言学的目的在于建立关于 24 和 25 的一般理论, 普通语言学要解决语言研究中的 26 问题, 所以, 普通语言学和理论语言学基本上是一致的。而应用语言学的界说尚无定论, 一般分为 27 和 28 两种。
7. 语言的发展必然包括两个方面: 29 的发展和 30 的发展。前者是指语言这一全民交际工具与其所服务的社会发展水平相适应的变化, 与

其所服务的人们活动领域以及分布地区相一致的变化;后者是指它的组成部分的历史变化。

提示词语 (可以重复使用):

- 1 结构 2 印度 3 演变 4 中国 5 语言的语音 6 整个人类语言的语音
7 人类语言 8 希腊-罗马语音 9 语音 10 普遍 11 文字 12 发生 13
结构系统 14 书写 15 规则 16 单位 17 广义 18 发展 19 推导性
20 结构 21 关系 22 语言交际功能 23 解释性 24 语言的功能 25 理论
26 狭义 27 语言结构系统

问题二. 简述下列问题 (每题 4 分, 计: 20 分)

- 1、语言的社会功能
- 2、微观语言学和宏观语言学
- 3、《释名》
- 4、转换生成语法四个阶段变化
- 5、语言单位特征

第二部分(日本語)

次の文章を読んで後の問題を解答しなさい。

(答えは必ず解答用紙に書きなさい)

文章一:

ネットの「文化インフラ」整備を

源氏物語や徒然草などをインターネットで読めるだろうか? この問いに対する答えは、現在では「YES」である。ネット上の電子テキストで読めると、さまざまな面で非常に便利だ。まず、印刷物を手元に置く必要がなくなるから、購入の費用も格納のスペースも不要になる。また、任意のキーワードで検索ができる。これによって、印刷物では不可能だった読み方ができるのである。

引用したいときに、正確な文章がうろ覚えでも、原文を探し当てられる。また、特定の言葉がどのよう^ろうに使用されているかを調べることもできる。例えば「源氏物語全体の中で<月>という言葉は何回でてくか?」といったことが分かる。これによって、紫式部の自然観についての論文を書くこともできるだろう。これから分かるように、電子化された古典文学集は、文化の基本的なインフラストラクチャーなのである。

では、「日本でもようやくネット時代の文化インフラが整った」と慶賀すべきだろうか? 誠に残念なことに、答えは、「NO」である。

なぜなら、本稿の最初の「YES」という答えの基礎となった日本古典文学サイトは、バージニア大学とピッツバーグ大学によって構築されたものだからだ(日本でもいくつかの試みが個別的になされているが、これほど系統的で、優れた検索機能をもつものはない)。

われわれはこれまで、日米間のサイトの内容に格差があることを嘆いてきた。「アメリカの情報ならネットで入手できるが、日本では駄目だ」「アメリカには優れたデータベースがあるが、日本にはない」等々。

しかし、日米間格差は、いまや絶望的な段階に達した。日本が自らの文化についてインフラを構築できないでいる間に、アメリカがそれを構築したのだ!

この現実を見れば、「日米のIT格差は今後逆転するだろう」などというのが、たわごとにすぎないことがよく分かる。日本での古典文学電子化は、ボランティア作業で細々と行われている。しかし、文化インフラとして使えるような大規模なサイトの構築は、政策措置による資金と人員の本格的投入がない限り、不可能だ。ネット上の文化インフラの日米間格差は、明らかに政策の違いによってもたらされたものである。

日本のインターネット政策は、通信回線の機能増強など、ハード面の施策に集中している。それらが不必要とはいわないが、通信回線がいかに高速化したところで、内容が空疎であれば、意味がない。

日本の公的施策が公共事業による「はこもの」の建設に偏っていることがよく指摘される。それを象徴するのは、地方都市に壮大な文化センターを建築しながら、そこでの催し物が貧弱なことだ。日本のIT社会は、仮に実現できても、それと同じものになるだろう。

問題一、上記の文章の中に使われている次の言葉の意味を中国語で説明しなさい。(15点)

- 1、格納のスペース
- 2、キーワード
- 3、インフラストラクチャー
- 4、ネット時代
- 5、データベース
- 6、たわごとにすぎない

- 7、ボランティア作業
- 8、サイトの構築
- 9、ハード面
- 10、「はこもの」の建設

問題二、上記の文章の内容によって次の質問に答えなさい。(15点)

- 1、電子テキストによって印刷物では不可能だった読み方は何があるか。
- 2、日本古典文学サイトの構築において日本は進んでいるか。いま、日本はどのような状況にあるか。
- 3、ネット上の文化インフラの日米間格差は何によって生じされたのか。
- 4、日本の公的施策は何を重視するか。

文章二：

流行語にみる現代若者像

一九九二年の新語・流行語大賞(自由国民社主催)からは、若者の現況がうかがえるものはほとんどなかった。若者の新造語が二十世紀末の日本の世相を映し出す活力を持たないことを示している。

『イミダス1992』によれば、中学・高校生の友だち付き合いは「ひるねだいすき」である。ココロは「人並み／ルンルン／ネアカぶりっ子／団体行動／スポーツ／気配り」。新入社員では「人並み意識／ルンルン気分／ネアカ／団体行動が好き／一応無難にこなす／スイマセンを連発する／気配り」。こういったところからいわゆる仲間言葉が仲間内の隠語として作り出され、若者が集団としての意識を共有し、明るく素直に元気よく過ごす姿として映るのではないだろうか。

若者像を、中学生からヤング・ビジネスマンまでを包括した全国的な規模で把握することは無理だし、流行語も全国的な広がりでもとらえることも難しい。筆者に身近な若者として、「ひるねだいすき」のあてはまりそうな女子短大生の観察から描いてみよう。

彼女たちはおしゃべりを好む。通学途中の電車内や歩道で。喫茶店で。授業中や休憩中の教室で。ありとあらゆるTPOでおしゃべりをする。

「しばく」は関西方言で「たたく」「なぐる」意の品のない動詞だ。彼女たちはこれを飲食する意味で使う。「茶あしばく」(お茶を飲む、喫茶店に行く)、「鳥しばく」(ケンタッキーにフライドチキンを食べに行く)。意味的に関係の薄い単語を無理に転用して使うところがウケるのだろうか。「トリシバコー」で意味が通じるのが仲間なのだ。

衣食は共通の話題になりやすい。ただ、ふところ具合はいつも豊かとは言えない。「ボンビー」(貧乏)、「一銭ビー」(お金がまったくない。昔の「ゲルピン」)。でも、おしゃべりはしたい。だから「ピンパ」(お金を節約するために髪を三つ編みにしてウェーブをつけてソバージュ状態にすること。貧乏な人のパーマ)。けなげな乙女心を垣間見る。仲間同士では目立つことを嫌う。「ヒカリモノ」を身につけたド派手な同性はフツの女の子から「イケイケねえちゃん」として、ちゃかされる。こういう用語は隠語性が強い。言葉はソト(の集団)に対しては異化し、ウチ(の集団)に対しては同化する。

異性とのお付き合いはグループ交際が変形した合コン。夜のTV番組を結構見ているらしく、それがマニュアルになっている。

A子「きのう、桃(びん)大の人と合コンしてん」

B子「どうやったー？」

A子「それがもー。イモ掘りやってん。おわってるわー」

B子「きつつー」。

「イモ掘り」とは、コンパなどでつまらない男しかいなかった時のこと。「おわってる」「きつつー」

は最悪の状態。

人や事柄に対して感動するより、さげすみ、けなす方が好まれる。感覚語とでも言うべき造語が頻繁に使われる。朝から授業で「だるだる」、かつこ悪い、ださいは「へぼへぼ」「ださださ」、場が盛り上がらないのは「シケシケ」。

C子「昨日のコンパ、シケシケやったわあ。むっちゃもっさいコばかり。おわってたで」

D子「ほんまや。もオ、ださださでシケシケ状態」。

こういう用語をテンポのいい会話の軽いノリにあわせてボンボン入れて、しらけさせないように気配りする。うまく言葉が出ないでいると、「今、カミカミ（言うことをかんでしまう。うまく言葉が出ない）やったでえ」とフォローしてやる。けんかを好まない仲良し同士だ。

一つのテーマについて掘り下げた討論をすることは、若者も、それこそ、一応無難にこなすだろう。しかしそれでは息がつまる。だから、お互いがしゃべりたいことを一方的にしゃべるところに成り立つ「テニス会話」。相手を傷つけず、自分も孤立しない気配りであり、方策である。ただ、お付き合い上手な彼女たちも、夜、布団の中では一人で何を考えているのだろうと気になる。

問題三、上記の文章をよく読んで次の若者の新造語を普通の日本語に直し、中国語に訳しなさい。

(10点)

「茶あしばく」

「トリシバコー」

「ボンビー」

「一銭ビー」

「ビンバ」

「イケイケねえちゃん」

「だるだる」

「へぼへぼ」

「ださださ」

「シケシケ」

問題四、次の若者の会話を普通の日本語に直し、中国語に訳しなさい。(10点)

A子「きのう、桃（びん）大の人と合コンしてん」

B子「どうやったー？」

A子「それがもー。イモ掘りやってん。おわってるわー」

B子「きつつー」。

文章三：

文とは何か？

「文」について考えている。

「文」の定義は、研究者の数だけその定義があるといわれるくらい、諸説ある。しかも、その研究者の言語観および言語論を浮き彫りにする試金石とでもいおうか、とてもシビアな問題である。

今、かりにあなたに「文」とはなんですか？という問いが寄せられたとき、受け売りではなくあなた自身の言語観に基づく文の定義とは、どのようなものになるだろうか？

学校文法の基礎になっている橋本進吉は、文について、

一、文は音の連続である。

二、文の前後には必ず音の切れ目がある。

三、文の終には特殊の音調が加はる。（『国語法研究』）

としている。文というものを音声面から形式的に定義している。確かに、文は、音の連続だし、文の前後には音の切れ目があるし、文の終わりにには特殊の音調がある。

しかし、これは、文そのものについて記述しているものではなく、文の周辺の表層的現象を述べているに過ぎない。例えば、「雨」とは何か、という問いに、

一、雨は水分の連続である。

二、雨の前後には必ず晴れがある。

三、雨の終には水溜りができる。

というのと大差ない。つまり、「雨」という現象そのものの構造を記述しているのではなく、「雨」という現象に相関する現象を記述しているにすぎない。

『日本国語大辞典』（小学館）では、どのように記述されているか。

「文法上の言語単位の一つ。文章・談話の要素。単語または文節の一個または連続で、叙述・判断・疑問・詠嘆・命令などの話し手の立場からの思想の一つの完結をなすもの。定義には諸説ある。西洋文法では、主語・述語を具えることが文成立の条件とされることがあるが、日本文法では必ずしもそれによりがたい。文章。センテンス。」

ずいぶんと具体的かつ詳細ではあるが、ここにも出てきている「連続」という概念。それほど「文」というものを定義する上で重要だろうか？

たとえば、大学に進学したものの、どうしても自分のやりたいことが見つけられず、大学を辞めようと決意した学生が友人に対して、とても言いづらそうに、

「オレさ、……学校辞めようと思ってるんだ。」

と発話した場合、表記上は「……」で表示してあるが、実際の発話では、「……」に相当する部分は沈黙である。音の「連続」は、そこにはない。もし、連続するのは、音ではなくて単語なのだとするなら、

「オレさ、あつ、ありがとう、学校辞めようと思ってるんだ。」

というような、学生が発話中に友人にビールを注がれて、「ありがとう」と言った場合、これもひとつの「文」か、というとそうではない。いうまでもないが、複文でもない。つまり、文は、音の連続と直接的な因果関係にはないのである。

では、文とは、一体何なのか？

問題五、上記の文章の文末から上に数えて10行目（たとえば、大学に進学したものの、）までの内容を中国語に訳しなさい。（15点）

問題六、上記の文章を読んで次の内容を含めて、あなたの考えを日本語（1000字程度）で述べなさい。（35点）

- 1、橋本進吉氏は何によって文を定義したのか。
- 2、作者は橋本進吉氏の定義をどのように評価しているのか。
- 3、作者の指摘によれば、いままでの文の定義にはどのような問題があるか。
- 4、あなたはどのように文を定義するか。